

本当に団結が求められている時、身分を裏切り者を許さない

日刊 動労千葉

86. 10. 31
No. 2395

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

苦闘の中から本物の団結を築こう

十月二七日、動労千葉新小岩支部の第九回定期大会は、本部より布施書記長をむかえ十二時より代議員・傍聴者六〇名の参加をもって成功裡に勝ちとられた。

「これからが本当のたたかい」

大会は、松本乗務員分科会会長の司会で始まり、議長に益川義行氏を選出した。冒頭、委員長あいさつにたった関支部長は、「自民党は国鉄関連法案の十月末衆院通過、十一月末成立を狙っている。『十一月ダイ改』についても動労『本部』・鉄労などの提案即日妥結という事態の中で、団体交渉の拒否・形骸化と事前作業の一方的実施をもって『十一月ダイ改』の強行実施を狙ってきている。これらの攻撃に対し、何ら闘わなければ、四万四千人の合理化と広域配転、「人活センター」！発令強行を許すことになる。いま、全国では「人活センター」からの闘いの決起がなされている。政府・国鉄当局のあらゆる攻撃に対して中間の道はない。『もうだめだ、とあきらめることなく』さらに団結を強固にして闘うことが重要である」と訴えた。

「オレンジカードを売って残ろう」なんてとんでもない

続いて、本部あいさつとして布施書記長より現在の状況について細部にわたり提起された後、祝電の紹介があり、執行部より経過・会計・会計監査の各報告、運動方針・予算の各案が提起され質疑応答に入った。

質疑では、「六一・ダイ改」とそれに伴う強制配転の問題、転換養成や、ネクタイ着用問題について意見や質問が続いた。また、この間発生した脱落者に対する追及や、インフォーマル組織、オレンジカード販売などで自分だけよい

子になろう」とする者についてもと徹底して弾劾しなければ、という意見がだされ、活発な討論の後、執行部提案が満場一致で可決された。



仲間を売り渡す裏切り者を許さない

組合歌合唱と、支部長の団結ガンバロをもつて支部大会は成功のうちに終了した。いよいよ正念場をむかえた国鉄決戦の中で、仲間が理不尽な当局の攻撃にたいし深い怒りをもやし、闘いぬいている時、「自分だけ残りたい」と魂すら売り渡し、仲間を売り渡す裏切り者を断じて許さず、さらに団結をうち固めて闘いぬこうではないか。

（寄稿・新小岩支部通信員）

雇用の確保が
すべてなのか
稚内市 東 道
（公務員 35歳）



総評の黒川議長が十七日の拡大評議員会で、総評全体として闘える様は雇用以外にないとして、国労新執行部二線を描いていく発言をしました。私はこれを聞いて日本の将来はどうなるのだろうかという思いにとらわれました。

雇用が最優先という考え方は労働組合として当然と受けとめられますが、しかしそれだけでは労働者は食ってさえないければ、人間としての権利はすべて否定されてよい、という奴隷的考え方になってしまいます。今、国鉄内では、あらゆる不当労働行為がおこなわれ、自殺者も多数でいます。たしかに民間企業、特に中小企業ではそれ以上ひどいところが多いかもしれませんが、しかし、そのような状態に「ノー」というのは、冷静に考えれば人間として当然のことです。そのような主張が国労内部で多数意見となって表れたことに、総評が「ノー」というのであれば、もはや労働者は総評に結集する意味がなくなるだろうと思います。

さらに、二百兆円といわれる国民の財産(国鉄資産)が白屋堂々と分割され、借金だけ国民に押しつけ、地方の住民の足が奪われるという、国鉄の分割・民営化は、まさに略奪といえるもので、戦後民主主義の重大な危機です。この問題を労働者の雇用問題に矮小(わいしょう)化させてはならないと思います。

総評がこのような問題に目をさぼり、雇用だけをすべて取引するといふ発想を許すなら、総評は日本の良識ある人々すべてに見放されるでしょう。

朝日新聞

11.3オハロ
団結祭典
11月3日(休)9時開始
とろ井天小學校グラウンド
(日鉄道病院裏、千葉労働年金庫近く)